

彼方「あなた」

校長通信

H26.1.7

Vol.31

【始業式で伝えたかったこと】

明けましておめでとうございます。二〇一四年、平成二十六年の幕開けです。今年も一年よい年になるよう一歩一歩前進していきたいと思えます。

さて、私からみなさんへの最初のお話しは、「メント・モリ」という言葉です。

これは、ラテン語で「自分がいつか必ず死ぬことを忘れるな」という意味です。「死を記憶せよ」などと訳されることもあります。芸術作品のモチーフとしても広く使われている言葉です。

日本人の平均寿命は、現在、女性が八十六歳、男性が八十歳と言われています。この数字は、生まれたばかりの赤ちゃんが生きる可能性がある年数を示しています。日本人の年齢をすべて足して人数で割り出した年齢ではないので、実際には日本人の半数以上が、平均寿命以上生きています。だからといって、自分が平均寿命前後まで生きられるとは限りません。いつ死ぬかは誰も知りません。場合によっては、明日死ぬかもしれないのです。

私達は、このことを二〇一一年三月十一日の東日本大震災で嫌と言うほど実感しました。年齢も性別も地位も財産も全く関係なく、大地震による大津波が、すべてを破壊し、三万人にも及ぶ人たちの命を一瞬のうちに奪ってしまったことを忘れてはなりません。ところが、平穏な日常が送られるようになるという記憶がどんどん風化し、色々なことを気

にしなくなってしまう。人のために自分ができ
ることは…。「家族や自分を大切にすることって…。」

「今を一生懸命に生きなきゃ…。」「当たり前で幸
せなんだ…。」その頃思った大切なことも忘れてしま
います。こういうことをいつも忘れないよう、勝ち
戦の凱旋の中で、將軍の後ろでいつも「メント・
モリ」という言葉を家来がつぶやいていたのです。

では、悔いの残らない人生とはどのような人生で
しょうか？それは、自分のミッションを果たそうと
する人生です。ミッションとは使命です。命を使っ
て果たすべきことです。それは「志」を持った生き
方です。そのことを「未来を拓く君たち
へ」という田坂教授の本が教えてくれています。昨
年度の卒業式でも紹介した本です。

その中で「与えられた人生において、己のためだ
けでなく、多くの人々のために、そして、世の中の
ために、大切な何かを成し遂げようとの決意」それ
が「志」だ、と書かれています。

新しい年が始まると同時に三学期というまとめの
学期が始まる今日、みなさんには、自分の「志」に
ついて考えて欲しいのです。

勉強が嫌いなある生徒が、「どうせ俺は、家の跡継
ぎだから勉強なんかしなくても、高校行かなくても
別に大丈夫。直ぐに働けるから。」と言って、いい加
減な中学校生活を送っていました。その時、お父さ
んから「お前には継いでもらいたくない。何のため
にこの仕事をするんだ？」と言われたのです。自分
の父親が何のために仕事をし、その為の勉強をどれ
だけ一生懸命やったのかということも初めて聞かさ

れました。いい仕事をするためには沢山の学びが必
要なことを実感したのです。何の「志」も持たずに
生活していたその生徒は、改めて親の仕事や生き方
を見つめ、自分の将来についても考えたのです。そ
して学ぼうとするようになったのです。勉強が嫌い
だったその生徒も三学期から勉強を本気でするよう
になりました。わかりたい、できるようにしたい
という気持ちが強くなった分、質問も多くなりました。
た。できるまで先生や友達に聞くようになりました。
あれだけ嫌だった勉強が少しずつできるようになり
ました。結果がよくなると勉強することも嫌ではな
く、だんだん楽しくなってきたのです。そして、以
前とは違う生徒がそこに座っていました。

自分の中に「志」が生まれ、「誰かのために何かを
一生懸命やる」という意識が、その生徒の中で行動
に変わっていったのです。このことは、終業式の「振
り返り」という中でもお話ししました。「意識が行動
を変え、行動が習慣を変え、さらには、そういう
習慣が人格をつくり替えていく」というお話です。
覚えていきますか？

みなさんの「志」は何ですか？誰のために何のた
めに、どう行動するのですか？その行動をどう習慣
づけるのですか？

できれば、「今を一生懸命生きる」という「志」の
ある生き方を求め、今一番頑張りたいことを自分の
目標として教室に掲げてください。そのことが「自
主貢献」という自ら考え・行動し助け合うことに繋
がっていくのだと思います。

今年も充実した学びの多い年にしていこう！